

第10回放送番組審議機関 議事概要

■開催年月日：平成26年7月16日（水）

■開催場所：ブロードキャスト・サテライト・ディズニー株式会社 会議室

■Dlife 放送番組審議機関審議委員（平成26年7月16日現在）：

北村みどり（三宅デザイン事務所 代表取締役社長 21_21DESIGN SIGHT 代表取締役社長）
齊藤裕人（日本大学 芸術学部映画学科教授）
中村伊知哉（慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科教授）
早見優（歌手）
ピーター・バラカン（ブロードキャスター）
湯川れい子（作詞家・音楽評論家、エッセイスト）
吉田知子（オリコン・エンタテインメント株式会社 取締役兼『オリ★スタ』編集長）
四方田浩一（元 株式会社キネマ旬報 DD 取締役 劇場運営事業部長）

*あいうえお順、敬称略

■出席した委員（敬称略）：

北村みどり（三宅デザイン事務所 代表取締役社長 21_21DESIGN SIGHT 代表取締役社長）
齊藤裕人（日本大学 芸術学部映画学科教授）
中村伊知哉（慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科教授）
早見優（歌手）
ピーター・バラカン（ブロードキャスター）
湯川れい子（作詞家・音楽評論家、エッセイスト）
吉田知子（オリコン・エンタテインメント株式会社 取締役兼『オリ★スタ』編集長）
四方田浩一（元 株式会社キネマ旬報 DD 取締役 劇場運営事業部長）

■議題：

- 「視聴者からの問い合わせ状況報告」
- 「社内考査基準改定の報告」
- 「平成26年6月、7月 番組改編についての説明」
- 「番組審議（作品紹介とディスカッション）」

*審査番組

- ・「サイバー諜報員 ～インテリジェンス～」
- ・「イーストエンドの魔女たち」
- ・「ゴードン・ラムゼイ 究極の料理～朝食からディナーまで～」
- ・「ハートレスシティ ～無情都市～」

■議事概要：

○視聴者から寄せられた問い合わせや意見の状況を報告した。

・当社より平成25年4月～平成26年3月までに寄せられた視聴者からのご意見、ご要望内容、男女比率、年齢層について説明。

○社内考査基準改定の報告

・当社より社内考査基準について、青少年に与える影響への配慮をより強化するための、特にCMや番組宣伝の放送時間帯別の基準を細分化する改定を行った内容を説明し、承認された。

○当社より6月と7月の改編内容と特別編成のポイントを番組宣伝映像の試写を交えながら説明を行った。

―21時以降の「プライム・タイム」の時間帯に人気番組「クローサー」の-spinオフドラマ「Major Crimes～重大犯罪課」と日本初放送となる「イーストエンドの魔女たち」、「サイバー諜報員～インテリジェンス～」海外ドラマ放送を開始したことを報告した。

―6月、7月の特別編成についての紹介。

・6月は、「世界環境ウィーク」にちなみ、「ディズニーネイチャー」シリーズを中心にネイチャー・ドキュメンタリーの集中編成を行ったこと、またディズニーのオリジナル・ミニ番組である「So Natural」シリーズも番組と番組の間に放送し、好評を得たことを説明。

・7月は、夏休みに向けテレビ初放送となる「トイ・ストーリー・オブ・テラー！」の放送、映画「マレフィセント」の公開に合わせ、映画「眠れる森の美女」を放送、海の日には「フィニアスとファーブ」の特集を行う等ディズニーアニメーション番組の編成の強化を図ったことを報告。

・「ゴードン・ラムゼイ 究極の料理～朝食からディナーまで～」を土日の午前中に放送し、平日視聴が困難な就労者の視聴にも配慮した編成を行ったことを報告。

・見逃し視聴者への無料動画配信サービス「Dlife.CATCH UP」を拡充し、WEB公式サイトやモバイルで見逃してしまった番組を期間限定で視聴できる機能を説明。

○委員からは次のような質問、意見、感想が述べられた。

―6月の特集放送番組「ディズニーネイチャー」「So Natural」について

・大変優れた番組である。撮影技術も、世界で数人しか撮影できないカメラマンによる高い技術によって制作された大変貴重な番組であり、劇場でも鑑賞したいほどの質の高さであったという感想が述べられた。

―審査番組に関するもの

「サイバー諜報員～インテリジェンス～」

・1話の中に盛り込まれているストーリー要素に対し、展開が早すぎる印象があり、入り込むことに躊躇する側面もあり、今のアメリカでヒットすることを意識された要素が詰め込まれた内容。かつ男性に好まれる舞台設定という印象があり、日本のアニメーションを想起させるような興味深い側面も見出されたという感想が交わされた。また、吹替え声優と実際の男優のイメージが異なる印象を受けたという意見も述べられた。

「イーストエンドの魔女たち」

・魔女・魔術といった個性的で、多少の恐怖感や妖艶な要素、コミカルな要素も加わった独特な作風となっているという感想が述べられ、視聴ターゲットについて、男女、年齢について国別の反応も知りたいという質問が寄せられた。

「ゴードン・ラムゼイ 究極の料理～朝食からディナーまで～」

・他局でのドキュメンタリー番組や、レストランの存在でメインのゴードン・ラムゼイについて認知がある。番組を通して親子で共演するユニークな構成で、ダイナミックな調理法やボリューム感のあるレシピが紹介され、全体の世界観を楽しめるという感想が述べられた。また、本格的なシェフでありながら、敢えて家庭的な大衆料理を紹介する内容で、リラックスして楽しめたという複数の意見も交わされた。

「ハートレスシティ ～無情都市～」

・映画に匹敵する高いクオリティの構成で、続きが見たくなるような本格的なドラマであるという複数の意見が寄せられた。また、韓国の文化や風習などを垣間見ることができ興味深いという感想も述べられた。

以上